

令和元年度 公開研究会

わかば学園の学びが生きたと感じる瞬間<sup>とき</sup>

～キャリアデザインを使った学び～

横浜市立若葉台特別支援学校（横浜わかば学園）



# 目次

- 目次 . . . . . P1
- 全体会① . . . . . P2~P15
  - ◇ 校長挨拶・学校案内・公開研究会内容案内
- 公開授業① . . . . . P16~P20
- 全体会② . . . . . P21~P36
  - ◇ 研究概要①②
- 昼食 . . . . . P37
- 公開授業② . . . . . P38~P40
  - ◇ ポスターセッション (2年生)
  - ◇ 「キャリアデザイン相談会 (3年生)
- 全体会③ . . . . . P41~56
  - ◇ 菊地先生資料
  - ◇ パネルディスカッション資料



# 全体会①

9：30～9：50

校長挨拶  
学校案内  
公開研究会内容案内  
研修会議室



公開研究会に参加の皆様

若葉台特別支援学校  
（横浜わかば学園） によろこそ！



開校7年目

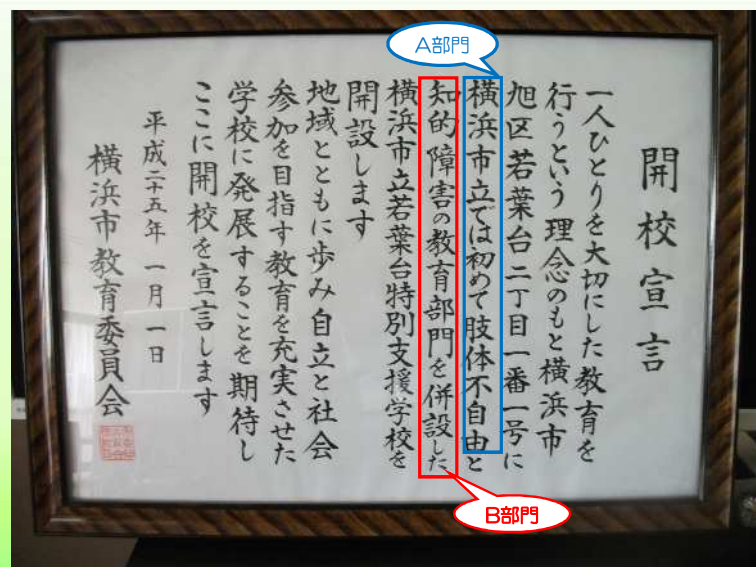
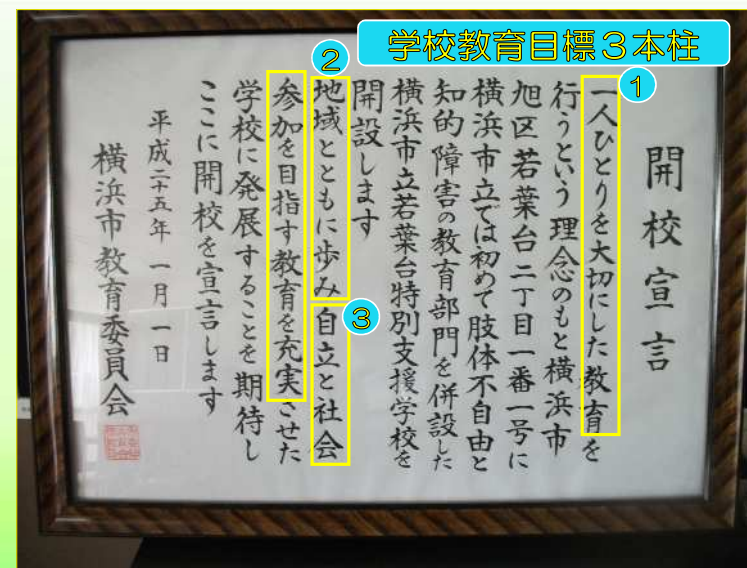
## 「学校づくり」について

### 【学校教育目標】

- (1) 一人ひとりを大切にする
- (2) 地域とともに歩む
- (3) 自立と社会参加

### 【特徴】

- (4) 肢知併置の交流及び共同学習



令和元年5月1日

肢体不自由教育 (A部門)	合計人数	
	90名	65
A (小学部 1、2学年)	24名	
B I・B II (小学部 3・4学年)	14名	
C (小学部 5、6学年)	9名	
中学部 I・II・III	20名	
高等部	23名	
知的障害教育 (B部門)	合計人数	84名 31
高等部 1年 (1～3組)	28名	
2年 (1～3組)	28名	
3年 (1～3組)	28名	



96

## 横浜わかば学園 校歌

- 1 桜並木ぬけて 一歩踏み出す  
今日も友と出会い 笑顔の花咲く  
ふたつの枝広げ ひとつの大樹  
しなやかに伸びゆく みんなの若葉台
- 2 金の銀杏並木 揺れて囁く  
同じ時を刻み 思いを重ねる  
ひとりひとりの実が 輝く大樹  
美しく色づく みんなの若葉台
- 3 遥か空に向かい 翼広げて  
未来見つめてゆく 希望のまなざし  
花の蕾抱いて ふくらむ大樹  
大きく羽ばたく みんなの若葉台



## 「学校づくり」について

### 3つの学校教育目標と肢知併置



### (1) 一人ひとりを大切にする教育とは

- 寄り添い徹底的に大切にする教育
- 信頼してもらえらるようしていく教育
- 個別的な配慮、合理的な配慮をしっかりとっていく教育



### (1) 一人ひとりを大切にする教育とは

#### A部門

- ①Sバスチェック乗車やシートフィッティング
- ②保護者との協働による生命や体力の維持・増進
- ③宿泊時の個別タイムテーブルと不寝番

#### B部門

- ①校内実習の確保（若葉台地区でも）
- ②現場実習（校外実習）の確保
- ③キャリアデザイン相談会（通算8回）



## A部門（肢体不自由教育部門）



### （2）地域とともに歩む

- 若葉台がもう一つの教室
- 地域とWIN-WINの関係を作り出していく
- 学校に気軽に来てもらおう

## キャリアデザイン 相談会



### （2）地域とともに歩む

- ウェルカムで準備をしてくださった地域
- 学校運営協議会は開校翌年に設置
- A部門の近隣散策や買い物学習で、ふれあい
- B部門の校内実習のサテライト教室として、初めての校外実習の場として

A部門

散歩、買い物



授業に招く



B部門

オフィス  
サポート



ビルメン  
テナンス



パン工房



4月26日開校記念日



カフェわかば開店1周年



営業許可書



菓子製造業（開校時）



軽飲食



## (4) 肢知併置の効果

- 互いの異なる障害を見合い、認め合い、ふれあうことにより、

何よりも「やさしさ」を持てる子が育っている。



## 運動会



## A部門の授業にB部門の生徒が参加



## 「わかばフライデー」交流





若葉台地域での初の実習（1年生） 10月



### (3) 自立と社会参加を目指す

- 卒業して就職すること
- 働き続けること
- 精神的な自立も含めて「自立」を目指す学校
- 社会人になるための移行支援の学校としての役割



### (3) 自立と社会参加を目指す

#### 【A部門】

自立＝持てる力を最大限発揮すること  
社会参加＝地域社会・世界に出て行くこと  
外部講師によってできる社会参加

#### 【B部門】

自立＝金銭的な、家庭からの自立  
社会参加＝地域社会・世界に出て行くこと  
校内実習を通しての参加



# 公開研究会内容説明



# お願い

- ごみは持ち帰りください。
- 貴重品の管理は各自でお願いいたします。
- グレー部分（A部門）は立ち入り禁止です。  
（感染症対策にご協力ください）
- ご不明なことがありましたら、案内係りの生徒・教員にお聞きください。
- パン、飲み物は「カフェわかば」をご利用ください。  
営業時間…10:00～13:30
- 書籍販売を「カフェわかば」横にて行っています。









メモ

A series of 15 horizontal dashed lines, evenly spaced, extending across the width of the page. These lines are intended for writing notes or a memo.



# 公開授業①

9:55~11:45

校内実習			一般教科			
時程	教科	場所	時程	学年	教科	場所
9:55~ 11:45	オフィスサポート	2-1 情報印刷室	9:55~ 10:45	1	音楽	音楽室
		ビルメンテナンス		進路指導室2・3 3F廊下・緑階段	2	美術
	パン工房			パン工房 カフェわかば	3	数学
		10:55 ~	1		家庭	調理室
		11:45	2		国語	1-1
	3		情報	PC室		



2月 公開研究会 一般教科2校時授業内容（1年音楽・2年美術・3年数学）9:55～10:45

教科	音楽	美術	数学	
授業場所	音楽室	美術室	2年3組	
授業者	桐生・太田	小原・堀	渡邊・谷崎	
教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱や合奏、鑑賞を通して音楽の楽しさを知るとともに、将来にわたって音楽が豊かな生活を送る手段のひとつとなるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活につながった表現と鑑賞の活動を通して、生涯にわたり美術的活動を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、数理的に処理する技能を身に付ける。</li> <li>・日常の事象の中から数量や図形を直観的に捉える力、数学的な表現を用いて表す力を養う。</li> <li>・数学的活動の楽しさに気付き、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。</li> </ul>	
キャリア的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの合唱をふり返り、よかったところや改善点について考え、よりよい合唱になるように工夫する。【意思決定能力】【人間関係形成能力】</li> <li>・限られた時間の中でポイントを絞り、仲間に伝える。【情報活用能力】【人間関係形成能力】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象をよく観察し、特徴を捉える視点を持つ。材料や用具の特性を知り、活用する。</li> <li>・作品制作において「自分の表現」をよく考え、適した技法や材料・用具の活用ができる。</li> <li>・鑑賞によって自分の表現を振り返ると共に、他者との違いやおもしろさを発見する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の学習熟度を確認する。【情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力】</li> <li>・基本的な四則計算ができる。【情報活用能力・将来設計能力】</li> <li>・買い物の際に電卓を使って計算できる。【将来設計能力】</li> <li>・日常生活の中で重さの概念がどのように利用されているかを学び応用できる。（調理実習との関連付け）【情報活用能力・将来設計能力】</li> </ul>	
本日の 授業の ねらい	<p>歌唱「大切なもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの合唱を自己評価をする。</li> </ul> <p>課題点をふり返りシートなどから生徒主導で考え、発表する。</p> <p>器楽 リズム創作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの仲間と協力をする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて行う人の気持ちを考えながら発表をする。</li> <li>・わからないことを自分から質問をすることができる。</li> </ul>	<p>「ピクトグラムを考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイディアスケッチから表現すること、伝えたいことをまとめ、本番描きを行う。</li> <li>・「相手に伝える」ことを意識して丁寧に描く。</li> <li>・作品を作り上げることを楽しむ。</li> <li>・周りの人の作品を見て、違いや面白さを発見する。</li> </ul>	<p>「学年末テスト返し」 ～今日が人生最後の数学の授業！？～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年末テストの結果をもとに、内容をふり返り確認する。</li> <li>・後期の評価の説明を聞く。</li> </ul> <p>「カフェタイム」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ重さであるが単位表記が異なる例を挙げ、比較することでイメージを養い、カフェタイムに実践する。 (1㎖=1ml=1cc≒1g)</li> <li>・これまで学習した内容をふり返る。(数学のカチェック)</li> </ul>	
生徒の 活動と その ねらい	導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠確認</li> <li>・前回のふり返り</li> <li>・本時の流れを説明</li> <li>・発表の準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠確認</li> <li>・前回のふり返り</li> <li>・本時の流れを説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠確認</li> <li>・「テスト返し」</li> </ul>
	展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽 リズム創作</li> <li>①発表の仕方の確認 (発表のポイント 仲間と協力して行う 声量 話すスピード 表情 時間)</li> <li>②発表の準備を行う</li> <li>③発表をする</li> <li>④ふりかえりを行う (発表者は ポイントを意識して行うことができたか。参加者は 発表者のよかったところを考える。)</li> <li>・歌唱「大切なもの」</li> <li>①最初から最後まで通して歌う</li> <li>②生徒が自己評価をする (10点満点で自己評価を行う。それぞれ良い点、課題点を発表する。生徒が自分の想いを発信しやすい雰囲気意識する。)</li> <li>③本時の課題を確認し、練習を行う</li> <li>④再度 自己評価をする (良い点、課題点はふりかえりシートに記入をするように言葉をかける)</li> </ul>	<p>生徒の動き</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①相手に伝えるということ・ピクトグラムの条件を確認する。</li> <li>②アイディアスケッチをもとに、スケッチブックに本番描きをする。</li> <li>③丁寧に色を塗るための技法を確認する。</li> <li>④丁寧に色を塗る。</li> </ol> <p>※⑤塗り終わった生徒はピクトグラムクイズを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「カフェタイム」</li> <li>①コーヒー、紅茶などのパッケージにある分量表示を確認する。 (どこに注目すればよいか) (どんな内容が表示されているか)</li> <li>②実際に飲み物を準備するにあたって、注意事項を確認する。 (軽量カップを使うと？ 電子はかりを使うと？・・・)</li> <li>③各自、好みの飲み物を選んで、実践する。 (1人分だと？ 2人分だと？ 比の復習)</li> <li>・テストについて、答合わせと解法の説明を受ける。</li> <li>・「数学のカチェック」これまでの学習をふり返る。</li> </ul>
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想発表 (人に伝えることの難しさや、伝わった時の嬉しさを分かち合う)</li> <li>・ふり返りを書いて終わりではなく、これからの日々にかすように話しをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピクトグラムクイズを考えた生徒がいた場合は、みんなでクイズを楽しむ。</li> <li>・完成した生徒の作品を紹介する。</li> <li>・次回の予告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期の評価についての説明を聞く。</li> <li>・必要に応じて質問があれば行う。</li> </ul>

2月 公開研究会 一般教科3校時授業内容（1年家庭・2年国語・3年情報）10:55～11:45

教科	家庭	国語	情報
授業場所	調理室	1年1組	PC室
授業者	中山・鳥毛	梁田・太田	渡邊・桑田
教科の目標	①食事の役割や栄養について知り、食事の大切さを自覚し、簡単な一食分の食事を作ることができる。 ②衣服の役割を知り、清潔な衣服の着用や身だしなみを意識し日常生活で実践できるようにする。 ③洗濯やアイロンかけ衣服の修繕など簡単な衣服の手入れの方法や必要性を知り、日常生活にいかすことができる。	生活に必要な国語についての理解を深め、伝えあう力を高めるとともにそれらを適切に活用する能力と態度を育てる。	・コンピューターを利用して、意思伝達、情報活用できる。 ・著作権やモラルを守り、情報の正しい活用ができる。
キャリア的ねらい	①社会人として自立の生活を送るために必要な知識や技能を身につけることができる。【将来設計能力】 ②今の自分の食生活を見直し、食品の種類や栄養のバランスに偏りが無いか調べ問題点の改善方法を考える。【情報活用能力・将来設計能力】 ③話し合いや発表、作業を通して学び合う力をつける。【人間関係形成能力】	・毛筆に親しむとともに、自分が選んで書いた言葉を仲間聞いてもらえるように発表すること。【意思決定能力】  ・仲間の発表を聞いて、自分の中でのNo.1を決めることによって、相手の気持ちを汲み取りながら感想を伝えあうこと。【人間関係形成能力】	・情報の収集、分析、発信を行う【情報活用能力】 ・作品の制作を行う。（テーマ、ストーリー、文字の装飾・大きさ配置、レイアウトなどを考える）【意思決定能力】 ・実習課題でテーマに適した素材を準備する【将来設計能力】
本日の授業のねらい	【私たちの食生活】の課題と実践～○○○な朝食～ ●各グループごとに朝食の課題を解決するために考えた献立を作ろう  ・計画した献立を発表し合い仲間の献立を知る。 ・計画を立てた献立を手順に従って調理できる。 ・衛生面・安全面に注意して仲間と協力して作業できる。 ・自分たちが作った料理や仲間の作った料理を見て、良いところや改善できることなどを伝え合うことができる。	「習字の作品を発表しよう」  ・相手が聞き取りやすいような発表を自信をもってする。（自分の作品に自信をもって発表できるように声掛けを意識）  ・発表する人が発表しやすい雰囲気づくりを意識する。  ・他の人の作品を見て、良いと思う作品を選び、相手に伝える。	「卒業前発表」  ①3年間のわかば学園での思い出 ②自分が熱中していること ③卒業する前にみんなの前で発表したいこと  ①～③の中で好きなテーマを選びパワーポイントを用いて発表を行う。 ※発表で使うスライドは、事前の授業で作成済 ・プレゼンテーションソフトの基本操作を習得し、自分の考えをよりよく表現できるようなスキルを身に付ける。
生徒の活動とそのねらい	導入	◆出欠確認 1人ずつ呼名をし、始まりの生徒の様子を確認する。 ◆本時の内容確認・習字の掲示の準備 ①ねらいと予定の確認（発表の仕方も説明する） ②習字の作品を生徒に返す。 ③思いを書いたシートを配る。 ④それぞれ時間内に貼る。（時間を決めて時間内に終わるように声をかける。） （困ったら相談するように声をかける。） ⑤貼り終わった人から発表の練習。	・出欠確認  ・本時の内容、発表順、注意事項の確認  発表の順番は前回の授業時にエクセルのランダム関数より決定。
	展開	◆発表 ①発表の仕方の確認。 （話を聞きながら、自分の中でのNo.1を考えると良いと声かけ） ②授業者が一人目の発表者を指名する。そのあとは発表した人が次の発表者を決める。 （聞く側は発表者の気持ちを考えて聞く姿勢を意識する。） ③全員発表が終わったら、自分の中のNo.1を発表してもらうことを声かける。  （褒められると素直に喜べない人が多いので、褒められたら喜び、お礼を伝えるように声をかける。また、選ばれないと拗ねてしまうことが課題と自覚している生徒がいるので、自分の感情をコントロールできるか、どのような様子になるか見守る。）	・生徒のプレゼンテーション（1人3分 ※質疑応答を含める）パワーポイントを画面に映す所は、授業者が行う。  ①パワーポイントを用いて発表  ②発表に関する質問や感想を挙手制で述べる。  ③発表時間が余っていた場合には、授業者が質問や感想を述べてもらう人を指名する。
	まとめ	◆どの作品も素晴らしいところがあることを分かち合う。  自分の決めた言葉を書いて終わりではなく、これからの日々につなげるように話をする。 廊下にある 他の学年の作品も見たいことを伝える。	・授業についてまとめた映像を鑑賞する。

# 本日の見どころシート(公開授業①9:50~11:45)

授業場所	情報印刷室・B部門2-1教室・正門	3F廊下・緑階段・進路指導室2・3・多目的ホール	パン工房	販売場所	
授業者	鈴木・真崎・川畑・尾鷲	1年 大野・西城	2年 木村・中武	有水美咲 岩崎優 本郷薫 中本妙子	
作業種	オフィスサポートコース	ビルメン		パン工房 カフェわかば	
キャリア的 ねらい	<p><b>【オフィスサポートコース心得】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から動いて仕事をします</li> <li>・仕事には最後まで責任をもちます</li> </ul> <p><b>【1年生】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎働く姿勢を身に付ける(チームでの軽作業中心)</li> <li>⇒あいさつや報連相など、職場で働く上で必要な力を身に付ける</li> </ul> <p><b>【2年生】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎任された仕事を1人で行う</li> <li>⇒自分から動いて作業や質問、報告、相談等を行う</li> <li>⇒責任をもって任された仕事を終わらせる(ABグループの引継ぎも)</li> </ul> <p><b>【3年生】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎広い視野で臨機応変に対応ができる</li> <li>⇒自分の仕事だけでなく周囲へのサポートや気遣いができる</li> <li>⇒突然の注文に対応する</li> <li>⇒初めての仕事に対してこれまでの経験を汎用させる</li> </ul>	<p><b>1年生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①基本技術の習得</li> <li>②コミュニケーション能力の向上 (上級生とのコミュニケーション→同級生とのコミュニケーション→チームでのコミュニケーション)</li> <li>③他者を意識した活動(巡回リーダー制でのチーム活動)</li> </ul> <p><b>2年生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①基本技術のスキルアップ</li> <li>②コミュニケーション能力の向上 (上級生・下級生とのコミュニケーション→同級生とのコミュニケーション→チームでのコミュニケーション)</li> <li>③課題解決能力の向上</li> </ul> <p><b>3年生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①コミュニケーション能力の向上 (下級生とのコミュニケーション→同級生とのコミュニケーション→チームでのコミュニケーション)</li> <li>②課題解決能力の定着</li> <li>③時間を意識した臨機応変な対応能力の定着</li> </ul>	<p>○全体として 仕事に臨む意識を育てる 環境づくり 身の丈に合った報告・連絡・相談ができる</p> <p>○個人の課題として コミュニケーション能力の向上 個々の仕事をやりきる経験から得られる自信</p> <p>○パン工房のチームとして 役割を果たすこととそこから得られる達成感</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●明確にねらいをもった生徒の配置をする</li> <li>●先回りした指示を出さない</li> <li>●パン工房は職場という意識で生徒たちと接する</li> <li>●生徒に指導した結果、改善されたこと、成功したことに限らず、その場で評価する</li> </ul>	
	作業内 で行 つ意 図し て 作 業 種 の 大 体 の	<p><b>【朝礼】</b> 9:00~(PC室)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ練習(日直)</li> <li>・作業終了時刻の確認(庶務)</li> <li>・作業分担(教員)</li> <li>・オフィスサポートコース心得復唱</li> </ul> <p>⇒ビジネスの場を意識したあいさつ練習により気持ちを切り替えることができたか</p> <p><b>【共同軽作業】</b> 9:10(玄関)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事受け取り</li> </ul> <p>9:20~(2-1教室)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーティング</li> <li>・作業準備</li> </ul> <p>⇒指示を確実に理解し全員で本時の目標を設定し共有することができたか</p> <p><b>【通常業務】</b> 9:15~(情報印刷室)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業準備</li> <li>・作業内容報告(生徒⇒教員)⇒作業開始</li> <li>⇒注文書、作業書、引き継ぎ書の3点セットから前回までの仕事を読み取り、本時の作業の見通しをもつことができたか</li> </ul>	<p>《1年生》 9:00-9:15 身だしなみチェック 授業準備 ⇒生徒同士での授業への気持ちの切り替え・準備。</p> <p>9:20-9:30 朝礼(予定の確認) ⇒1日の活動をイメージしながら話を聞く。 ⇒必要な情報を選び、メモをとる。</p>	<p>《2年生》 9:00-9:15 身だしなみチェック 授業準備 ⇒生徒同士での授業への気持ちの切り替え・準備。</p> <p>《2年生》 9:00-9:15 身だしなみチェック 授業準備 ⇒生徒同士での授業への気持ちの切り替え・準備。</p>	<p>8:55~ 身支度・手洗い</p> <p>⇒前室からの雰囲気づくり ⇒最初からトップギアの感覚で動けるか</p> <p>今日のための準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トッピング</li> <li>・焼成</li> <li>・成形</li> <li>・食パン、お菓子出荷準備</li> </ul>

時間、キャリア教育的な狙いを記入してください

公開授業 (9:55~11:45)	<p>【共同軽作業】 9:40~(2-1教室) ※当日の朝に仕事内容が分かる ⇒チームで連携して仕事に応じたやり方を工夫することができたか ⇒分からないことを発信し、互いに考えながら行動することができたか</p>	<p>【通常業務】 9:25~(情報印刷室) ≪定型業務≫ ・パン工房関係 ・名刺 ・日めくりカレンダー 等 ≪外注業務≫ ※受注内容による ・顧客との連絡 (メール・電話・接客等) ⇒定型業務に対し教員に頼ることなく1人で取り組むことができたか ⇒今までの作業で学んだ技術を生かして外注業務に取り組むことができたか</p>	<p>9:30-10:30 後期期末試験内容の説明を聞く。 ⇒必要な情報を選び、メモをとる。 ⇒わからないことは自分から質問する。</p>	<p>9:20-9:30 朝礼(予定の確認) ⇒1日の活動をイメージしながら話を聞く。 ⇒必要な情報を選び、メモをとる。 9:30-9:45 生徒のみのミーティング ⇒生徒のみで作業効率を重視したミーティングを行い、自分たちで役割分担を行う。(自分の弱み・強みを踏まえた役割分担) ⇒仲間、もしくは個人で清掃場所と清掃時間の設定をする。(過去の経験を踏まえたミーティングを行う) 9:45-11:00 校内清掃 ⇒仲間、もしくは個人で決めた計画に沿った活動を目指す。 ⇒お客様からの質問にその場で考え返答し、意見交換を楽しみながら活動する。 11:00-11:20 片づけ ⇒仲間と協力して道具の片づけを行う。 11:20-12:20 3年生の卒業制作鑑賞 12:20- ふり返り ⇒ふり返りを通して、自分の良かったところや課題をまとめ、仲間と共有する。(申し送り)</p>	<p>出荷準備 ・袋詰め ・シール貼り ・ハンドラベラー(値段・消費期限) ・ポイントシール貼り、商品陳列 ・出荷表確認 ⇒11時半にほとんどの出荷が終わるように、一丸となって働く意識をもつ ⇒報告と確認を徹底する ⇒最後まで丁寧に確実に進行 ⇒生徒同士のコミュニケーション ⇒自分から積極的に仕事を求める 【3年生】自分に任された仕事を確実に行いつつ、下級生に仕事を伝授する 【2年生】自分の任された仕事を確実にを行い、確認と報告を意識、徹底すること 【1年生】自分の仕事の確認と報告を意識、徹底すること</p>	<p>10:00~ カフェ開店 ・パンの運搬、陳列 ・会計、袋詰め ・ご案内などの接客 ・飲み物提供 ・片付け ⇒お客様に感謝の気持ちをもって接客する ⇒自分からできる仕事を探す ⇒状況を見て行動する</p>
	<p>【共同軽作業】 10:40(2-1教室) ・中間報告 ・休憩 ⇒中間での進捗状況を把握しペースアップしたりヘルプを出したりなどの対応ができたか</p>	<p>【通常業務】 ※前半作業と同様 ※休憩は各自でとる ⇒教員に質問する前に解決方法がないか模索することができたか(マニュアルを見る、仲間に相談する など) ⇒納期を意識し見通しをもって作業に取り組むことができたか</p>	<p>10:30-12:00 試験実技練習 ⇒聞き取った情報を意識しながら実技練習を行う。 ⇒自分からわからないことは質問する。</p>	<p>引き続き実施</p>		
	後半 (11:50~12:00)	<p>【共同軽作業】 11:45~(2-1教室) ・出来高の確認 ・納品準備 12:00(正面玄関) ・納品(作業報告) ・片づけ ・ふり返り ⇒自分たちで改善提案ができ次回の目標設定ができたか</p>	<p>【通常業務】 12:10~(情報印刷室) ・作業終了 ・片づけ ・清掃 ・引き継ぎ書記入 ⇒本時の作業がどこまでできて、次回は何から始めればよいのかを整理して、誰にでも伝わるような内容で引き継ぎ書に記入することができたか</p>	<p>12:00- 片づけ・ふり返り ⇒仲間と協力して道具の片づけを行う。 ⇒ふり返りで自分の課題や良かったところを知る。 ⇒ふり返りを通して、良かったところや課題をメモしたり、発表したりする。</p>	<p>片付け ・洗い物 ・天板掃除 ・シール収納 ・検食 ⇒任された仕事をしっかりとやる(仕事は選べない) 作業終了時 ・今日のパン工房をふり返って ⇒自分でできたこととできないことがわかり、次につなげられる</p>	
12:00	<p>【終礼】 12:25(PC室) ・作業報告 ・改善提案(ミスや注意事項があって全体に周知しなければならない場合) ・教員より ⇒正しい言葉遣いで全員に伝わる分かりやすい報告ができたか ⇒失敗や学んだことを次に生かそうとしているか(メモを取る、全体で共有するなど)</p>		<p>引き続き実施</p>			

# 全体会②

11:50~12:40

## 研究概要

- ① キャリアデザイン
- ② 教科横断的取組

研修会議室



わかば学園の学びが生きたと感じる瞬間<sup>とき</sup>  
～キャリアデザインを使った学び～



2020/2/7

キャリア指導部長・研究主任 岡本 洋



## キャリアデザインの成り立ちと今後の課題

1. わかば学園はなぜキャリア教育を主体に据えたか
2. キャリアデザインを始めるきっかけと着想
3. キャリアデザインの変遷
4. キャリアデザインの実際の運用
5. キャリアデザインで大事なこと
6. 課題とこれからの目指すべきキャリアデザインについて



## 1. わかば学園はなぜキャリア教育を主体に据えたか



## 開校までの経緯1

1. 平成22年に新治特別支援学校移転に伴い、中学校個別支援級卒業生急増に対応するために軽度知的障害の併置が決まり開校することになった。
  - 対象：軽度知的障害者
  - 教育目標：企業就労による自立と社会参加
  - 教育課程：
2. 設置基本計画から
  1. 総合的な学習の時間を核として、3年間の**キャリア教育**を実施し、生きる力を育成する。

以下略



## 開校までの経緯2

1. 本校を立ち上げた川口開設担当指導主事（当時）
  - NISEの「キャリアプランニング・マトリックス」の話を聞き、わかば学園の教育課程の中に入れたいと考えた。
  - 「キャリアプランニング・マトリックス」をまとめた菊地一文先生を訪ね、キャリア教育のエッセンスや視察すべき学校の教示をいただく。
  - 以後、菊地先生には定期的にわかば学園に足を運んでくださり、本校の発展にご尽力いただいている。
2. 白河総合支援総合学校など各地の学校を視察
  - 白河総合支援学校は森脇勤先生が、作り上げた学校で本校のキャリアデザインは白河総合特別支援学校を参考に作り上げられている。
  - 白河総合支援学校の取組は「学校のカタチ」という森脇先生の著書に詳しく載っている。





知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」

（注）本表は、知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）であり、実際のキャリアプランニング・マトリックスとは異なる場合があります。

キャリアプランニングの項目	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）
キャリアプランニングの目的	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）
キャリアプランニングの前提	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）
キャリアプランニングの目標	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）
キャリアプランニングの計画	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）
キャリアプランニングの実行	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）
キャリアプランニングの評価	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）
キャリアプランニングのフォローアップ	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）	知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）



## 2. キャリアデザインを始めるきっかけと着想

### 白河総合支援学校の取組から

- 未来を志向するために行ったことを振り返るためのツールが必要と考えた。
- そこで、白河総合支援学校で行っていた「移行支援デザイン」をもとにした「キャリアデザイン」を本校の状況に合わせて取り入れることとした。
- 白河総合支援学校のキャリアデザインでは専門教科と普通教科への課題をそれぞれ立てていたので、本校もそれにならう形とした。
- 普通学科と職業学科に違いはあったが、平成24年2期生入学とともにスタートした。

## 3. キャリアデザインの変遷

初年度からこれまでの動き

## 初年度（開校2年目）



## 初年度（開校2年目）

### 白河総合支援学校を参考にキャリアデザインを始めてみたら…

- 問題点が・・・
  - 当初は、生徒が自分の好きなタイミングで聞きに来て良いという設定をした。
  - しかし、いつ聞きに行けばいいのかわからない。
  - 何を聞いていいかわからない
  - 普通科で教員数が少ないうえに1・2学年しかいないので、先生もゆっくりと話を聞く時間が持ちづらい（空きの教員が少ない）  
などなど

結局、授業中(CC・CG)で行うことに…??



そこで、

「相談する機会」  
をあらかじめ設定しよう。

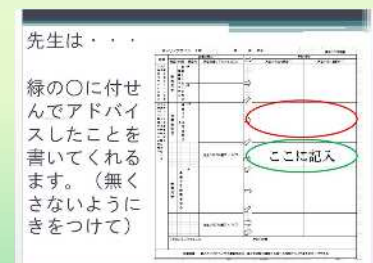
と考えた。

#### 設定することによるメリット

相談する時間をあらかじめ確保ができる。  
相談の仕方がわかる。  
相談することがメリットになるとわかる。  
窓口（誰に相談していいのか）がはっきりする。  
問題をすぐに共有化できる。



## 最初のキャリアデザイン相談会の様子



## 初年度のキャリアデザインシート（1年）

最初のシート

The initial sheet is a grid with 4 columns and 5 rows. The columns are labeled '学年', '学期', '科目', and '学習目標'. The rows are labeled '1学期', '2学期', '3学期', '4学期', and '5学期'. The grid is mostly empty, with some faint text in the header and footer.

白河総合支援学校を参考に作成

改訂版

The revised sheet is similar to the initial one but has two additional columns added to the right. A red arrow points to these new columns with the word '追加' (Addition) written in a red box.

## 改訂したところ

- 先生からのアドバイスを記入する欄を追加した。
- 理由
  - そのアドバイスを参考に教科の目標を立てたのかわかるようにしたため（根拠を明示）

A detailed view of the revised sheet showing the added columns. Red boxes highlight the new columns, and red arrows point from the text in the previous block to these boxes. The new columns contain handwritten text and checkboxes.

## 2年目（開校3年目）

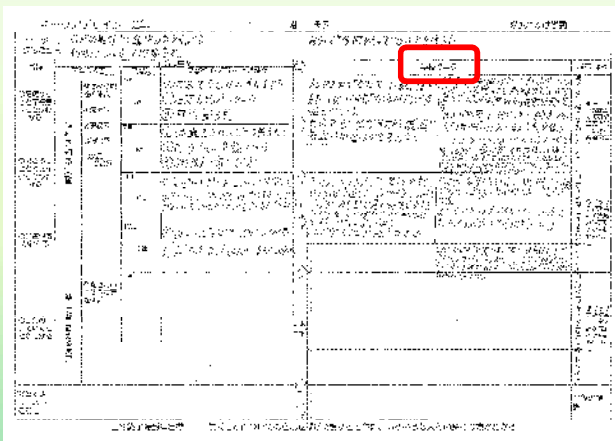
### 2年目（開校3年目）

#### 初年度を振り返ってみての課題

- 校内実習と教科学習の目標が似かよってしまう。
- 教科学習の目標がなかなか思いつかない。  
(現場実習を通して分かったことなので、校内実習で何を学ぶかになりやすい)
- 学校で学ぶが、実習と教科で分かれていたものを統一。
- 2年生の学びの中で、4つの職種を実習するが、現場実習を題材として相談することで、相談の幅を意図的に小さくし、相談しやすい環境づくりを目指す。
- 「相談してよかった」を感じ取れるように

## 2年目の大きな変更

- 2年目の変更が基本形となり、今のキャリアデザインに繋がっている。



## 3年目の大きな動き

- キャリアデザインシートを個別の指導計画として機能させる。



## 3年目の大きな動き

- ◆ キャリアデザインシートと個別の指導計画は当初別で作っていた。
- ◆ なぜ一体化を考えたのか？
  - 個別の指導計画はどうしても4月に作成し6月ごろからの実施になりやすい。
  - 一度決めた目標を変更しにくい。教師が、個別の支援計画や三者面談などで意向を聞き取って作成する。
  - 結果、実態にそぐわなくてもそのまま計画が継続する。

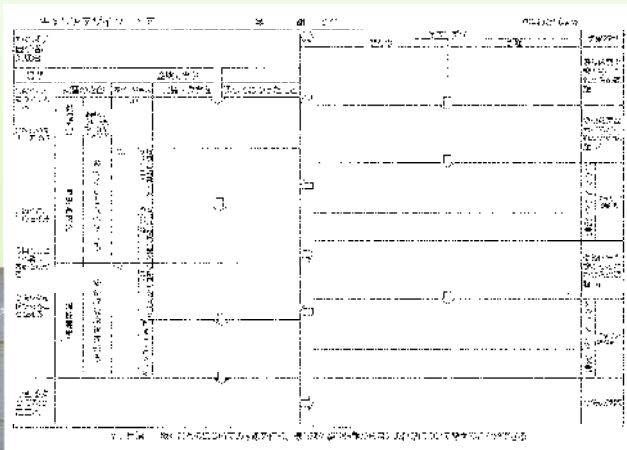


## 個別の指導計画にすることによるメリット

- 本人自身で目標を決めることができる。
- その都度自分にとってタイムリーな目標を立てることができる。（変えるのも変えないのも本人の自由）
- 様々なアドバイスから目標を立てるので、うまくいかなかったときにすぐに次の方法を考えることができる。
- 教職員の様々なアドバイスがそのまま支援の方法になる。



廊下に掲示  
して意識化



## 4年目の動き

- 1年生の最初のキャリアデザイン相談会の変更
- 今まで、職場見学や職業基礎の授業から課題を見つけれていた。まだ1年生の最初の頃ということで、あまり実感を伴わない部分があった。



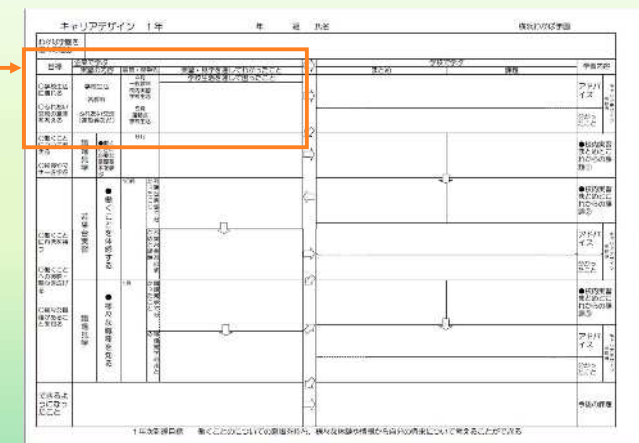
## 4年目の動き

- それよりも、中学の個別級から高校に入学し、初めて軽度知的障害を持った人だけの集団になる事や学校の中で中心的存在（自分たちだけの学校）になることによる、戸惑いや興奮または挫折感などを感じているように思っていた。
- 初めての通学やA部門との交流といった、中学時代には無かった部分が増える負担感も感じていた。



## 4年目の動き

- 学校生活の相談を最初にした。



わかば学園の教育課程

職業人として社会の中で前向きに生きていくことを目指す。  
社会に貢献できる心豊かな人材の育成

「働く力」と「働き続ける力」をはぐくむ

就職

3年

2年

1年

一般教科

社会自立のために必要な内容を学ぶ  
(ライフキャリアの確立)

国語  
数学  
理科  
社会  
音楽  
美術  
保健体育  
家庭  
英語  
情報  
職業基礎

教科学習

校内実習

地域に展開  
コミュニケーションカ  
OS (オフィスサポー  
ト)  
ビルメンテナンス  
パン工房

コース選択  
2年間学ぶ  
職業を選ぶ

トライアル実習  
3コースを体験

CC・CG

ふり返し  
と  
整理・活用

キャリア  
デザイン

キャリア  
デザイン  
相談会

相談力

現場実習

⑤就労試験実習採用選考

④就労体験実習就労を  
前提として

③適性を見極める実習  
職種を選択する

②適性を知る実習  
4つの職種を体験する

①若葉台(地域)で実習  
働くことを体感する

節を作りながら成長する

教育課程の中で教科学習と現場実習  
をつなぐ重要な教科という位置づけ

入学



## わかば学園の特徴

- キャリアデザインをしていくことが、学習の核となる。

この核を学習していく教科が、

### CC・CG

(キャリアカウンセリング・キャリアガイダンス)

- 教科学習と現場実習の2つが教育課程の柱であること



## わかば学園の特徴

- この2つの柱の内容をふり返り、次の目標を立てて教科学習と現場実習を行き来しながらスパイラルの中で、キャリア発達を促していく。

- 教科学習の中には一般教科と校内実習、CC・CGがある。一般教科・校内実習と現場実習を繋いでいく教科がCC・CGとなり、学習の核となる。(図参照)



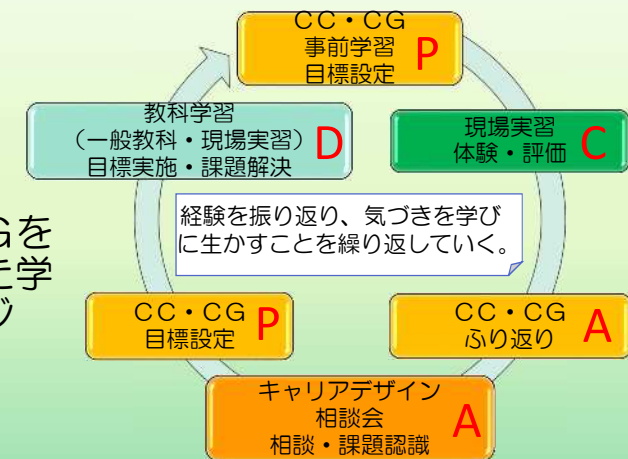
## CC・CG

(キャリアカウンセリング・キャリアガイダンス)

- 教育課程上では総合的な学習(探究)の時間に当たる。
- なぜ、2つの柱をつなぐ、教科がCC・CGなのかと言うと総合的な学習のねらいが、キャリア教育の目的とほぼ同義だからである。
- ねらい  
「自ら課題を見付け、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力を育成し、自己の在り方、生き方を考えることができるようにすること」

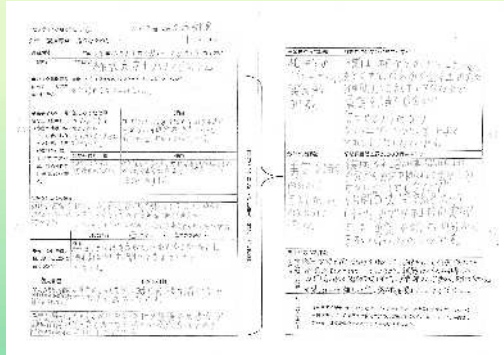


## CC・CGを中心とした学習イメージ



## CC・CGを中心とした学習イメージ

CC・CGの中でふり返り  
現場実習をふり返り  
課題をまとめて相談会へ  
課題のアドバイスを受けて  
教科学習の目標を立てる



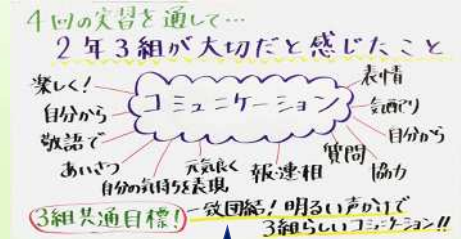
実際の  
アドバイスを受け  
た用紙  
(個別相談)



自分で、優  
先すべき順  
位をつけて  
目標にする。



## CC・CGを中心とした学習イメージ



そのほかにも、クラスみんなでふり返り  
共通項を見つけ出して目標化



## 5. キャリアデザインで大事なこと

キャリアデザインで最も大事なことは

① 様々な意見を聞いて

**自分で選ぶこと**

この自己選択に極力、他者の意向が入らないことが重要





キャリアデザインで最も大事なことは

- ② 自分の想いを伝え、相互にアドバイスすることで出てくる

## 発見と共感

- ・特に生徒同士の発見と共感は現場実習をしたものでしかわからない部分に価値があるということを認めていくことが必要（教員はやっていないので部外者）



なぜか??

**本人自身が気づき  
納得した答えしか、  
本人のものにならない**

- ・これまでの実践から



より良く生きるために、  
学校時代に獲得してほしいこと

### 「ふり返り」

過去をただふり返るのではなく、未来志向で夢を実現するイメージ。

### わが校の造語としての「相談力」

困ったときに困ったと言える。すなわち相談が自由にできる状態になっていることと考えている。



生徒の気づきに寄り添う

- ・すべての教育課程のなかで
  - 対話を重視
  - 本人の気づきを促したり、引き出したりすることが、教員の仕事。
- ・気づきを本人のものとするためには
  - 自己肯定感や自己有用感の育成



## 6. 課題とこれからの目指すべきキャリアデザインについて



### 課題

- ① 最初に企画した教科とのつながりを考えていく。
- ② ライフキャリア教育との統合



- ① 新学習指導要領に基づいた教育課程の編成
- ② 生活に必要な力を身につけるときの問いを考える



### 目指していく方向性

・結局のところ

**自分にとってよりよい人生を送ること**

そのためにも

- 社会に出た時に「何を」「いつ」「どのように」相談することが適切なのかがわかるようにすること
- 相談する勇気を持つこと



すべての卒業生が、適切な相談と相談

する勇気もてるようになるために

一つのツールとして

今後もより良い方向性を考えていく

ご清聴ありがとうございました。

次は研究概要②教科横断的取組について



# 特別活動と各教科・他領域との関連から進める カリキュラムマネジメント

～B部門 高等部2年 修学旅行に向けて～



## 1、問題の所在 【①修学旅行担当としての反省】

### ●2学年職員 修学旅行アンケート●(抜粋)

- ・おこづかい帳の書き方、計算方法を勉強しておいた方がよかった。
- ・ホテルのバイキングでの食事のとり方(野菜もきちんと食べる等)を事前学習で行ってもよいと思った。

→修学旅行に向けて身につけたい力を明確にして、

一般教科の中で「何を」「どのように」学ぶのか

整理する必要がある！



## 1、問題の所在 【①修学旅行担当としての反省】

様々な先行研究において、特別活動における修学旅行は、  
**各教科や他領域との関連**を重視する必要があることが  
明らかとなっている

本校において

特別活動である修学旅行と一般教科や他領域との関連について  
改善を図っていくことが有効

⇒学校全体の

教科等横断的なカリキュラムマネジメントへ

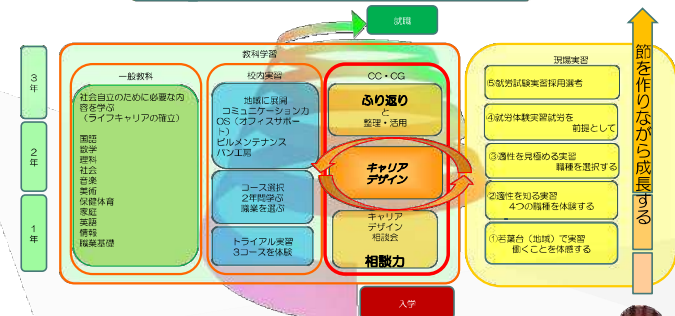


## 1、問題の所在 【②本校教育課程の根本的な問題】

わかば学園の教育課程

職業人として社会の中で前向きに生きていくことを目指す。  
社会に貢献できる心豊かな人材の育成

「働く力」と「働き続ける力」をはぐくむ



各領域との関連を示すことが必要！



### 1、問題の所在 【③一般教科における問題】

本校の**一般教科**は、  
社会自立のために必要な内容を精選して、  
基礎学力や基礎体力を育むもの

しかしながら...

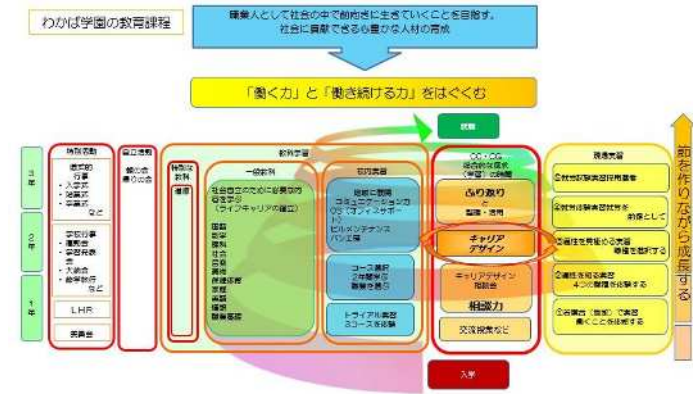
- 職員間: 3年間で「身につけさせたい力」について共有できていない...
- 生徒: 学んだことが社会自立のためにどのようにつながっているのか関連付けることが十分に達成できていない...

※キャリアデザインシートへの記入事項が現場実習、校内実習の内容が中心

**一般教科**において、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を！



### 2、本研究の目的



キャリア教育を促進するために、  
全ての教科・領域のスパイラルの中で進められる必要性を検証する！




### 3、研究方法・経過 【①修学旅行に向けて身につけたい力】

#### 修学旅行に向けた一般教科における指導内容(つけたい力) (案)

国語	電話のかけかた・マナー(緊急時)、北海道の文化(アイヌ)、伝票の書き方、作文(事後学習)
社会	北海道の地理(特産物やお土産)、歴史、地図読み取り、ガイドブックの見方、班別自主行動計画
数学	長さのイメージ、時間の逆算、概算、お金の価値(最低賃金で修学旅行費用を貯めるには)、買い物(お土産の買い方)、お小遣い帳のつけ方、お小遣いの管理、電卓の使い方
理科	人間のからだのつくり、北海道の天気、飛行機(気温、気圧)
音楽	アイヌ民族の音楽、修学旅行テーマソング、カラオケ(バスレク)
美術	しおりの挿絵、写真の構図(遠近感、焦点)、修学旅行の思い出の絵(事後学習)
保健体育	体調管理、応急処置(けが、体調不良(熱中症)、カヌー体験時に溺れた場合)、体の部位、冬のオリンピックの歴史、風呂の入り方(大浴場やユニットバス)の使用方法、マナー、体の洗い方、危険予知、カヌー実技、アイヌダンス
家庭	青年期に必要な栄養素(朝食、食事の役割、栄養バランス)、食事マナー、旅支度(荷物整理の仕方、気候に応じた服装)、浴衣の着方
情報	インターネットの活用(必要な情報の調べ方)、経路検索、グーグルマップの使い方、スマートフォンの使い方
英語	簡単なあいさつ
職業基礎	できるようになりたいライフスキル

### 3、研究方法・経過 【②各教科・領域指導内容一覧表 ~作成~】

### 3、研究方法・経過 【②各教科・領域指導内容一覧表～活用～】

令和2年度  
年間指導計画の作成へ 




B部門 職員室



### 4、次年度に向けて 【①修学旅行と一般教科、他領域との関連】



札幌？小樽？  
函館？旭川？  
どこへ行くんだろう？

授業の実施→評価→次年度の修学旅行実施後、研究結果まとめ  
⇒特別活動と各教科、他領域等の関連について  
検証へ 

### 4、次年度に向けて 【②3年間で育成すべき資質・能力】

<教職員にアンケート> 3年間で各教科等で身に付けたい力は？



**「3年間で育成すべき資質・能力」**



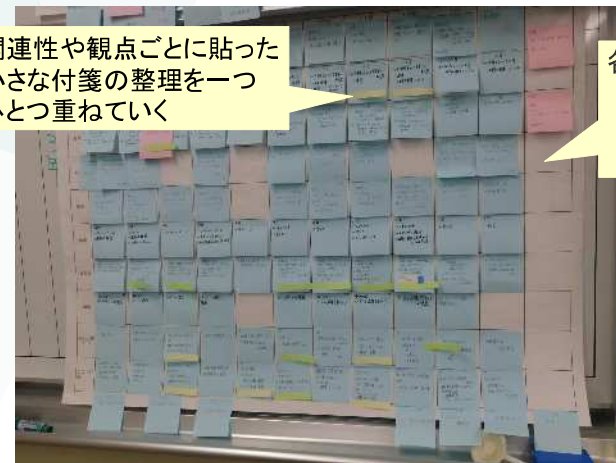
社会的自立・精神的自立・経済的自立・身体的自立  
4項目に整理

さらに、項目ごとに、卒業時に一人で生活するために必要なスキルを具体的に検討する

### 4、次年度に向けて 【③教科等横断的カリキュラムマネジメント】

関連性や観点ごとに貼った  
小さな付箋の整理を一つ  
ひとつ重ねていく

各担当者が  
教科等横断的な視点をふまえて  
指導内容を検討する際に  
使えるようなツールに！！



# 昼食

12:40~13:20

昼食場所：研修会議室

1Fコミュニティハウス研修室①②③

カフェわかば（10:00~13:30 カフェ・パン販売）



# 公開授業②

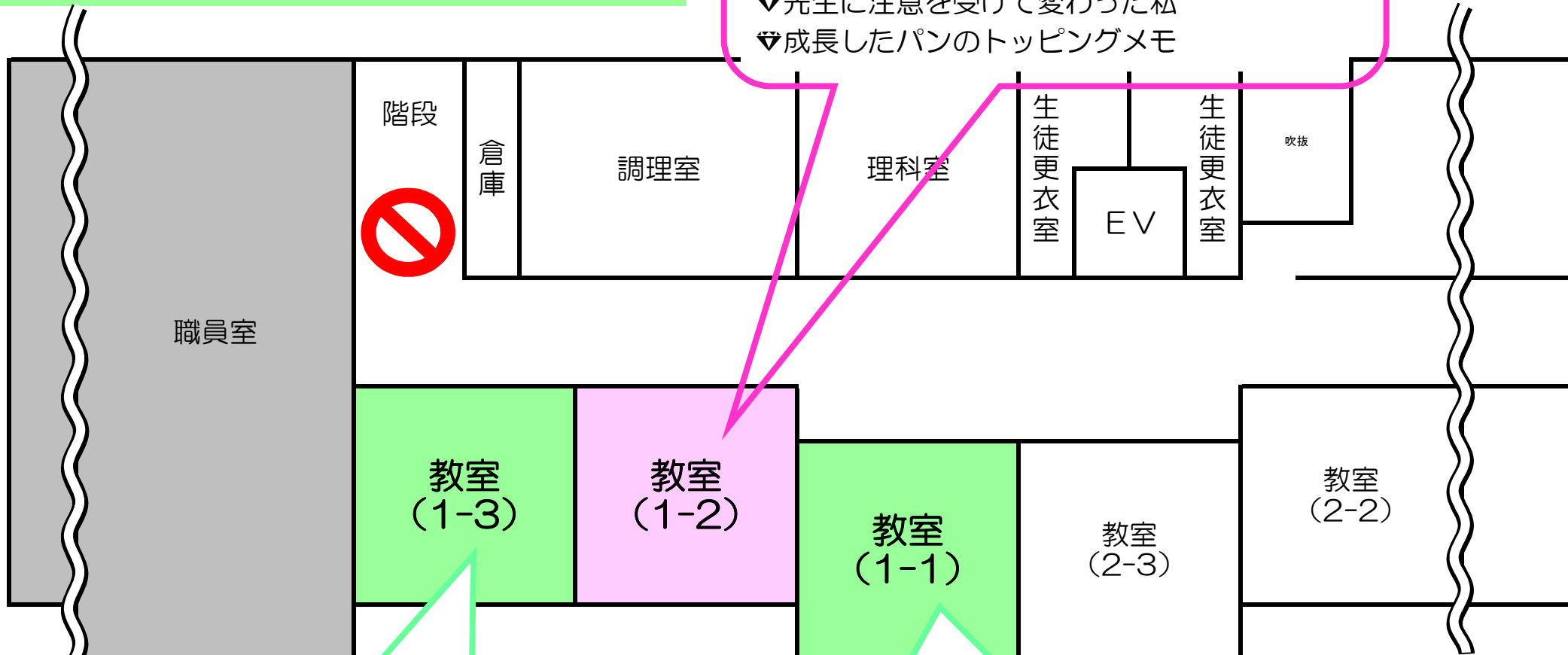
13:25~14:15

13:25~14:15	(2年生) ポスターセッション “自分が成長した瞬間” 場所：1-2・2-3・2-1	(3年生) 「キャリアデザイン相談会」 “参加者の悩み聞きます” 場所：1-3・1-1・2-2
14:15~14:30	休憩	



(3年生)  
「キャリアデザイン相談会」  
“参加者の悩み聞きます”

- ▼自分を知る大切さ（相手から見た自分）
- ▼つらかったふりかえり
- ▼変わった自分
- ▼きょうふの、つうきん練習
- ▼先生に注意を受けて変わった私
- ▼成長したパンのトッピングメモ



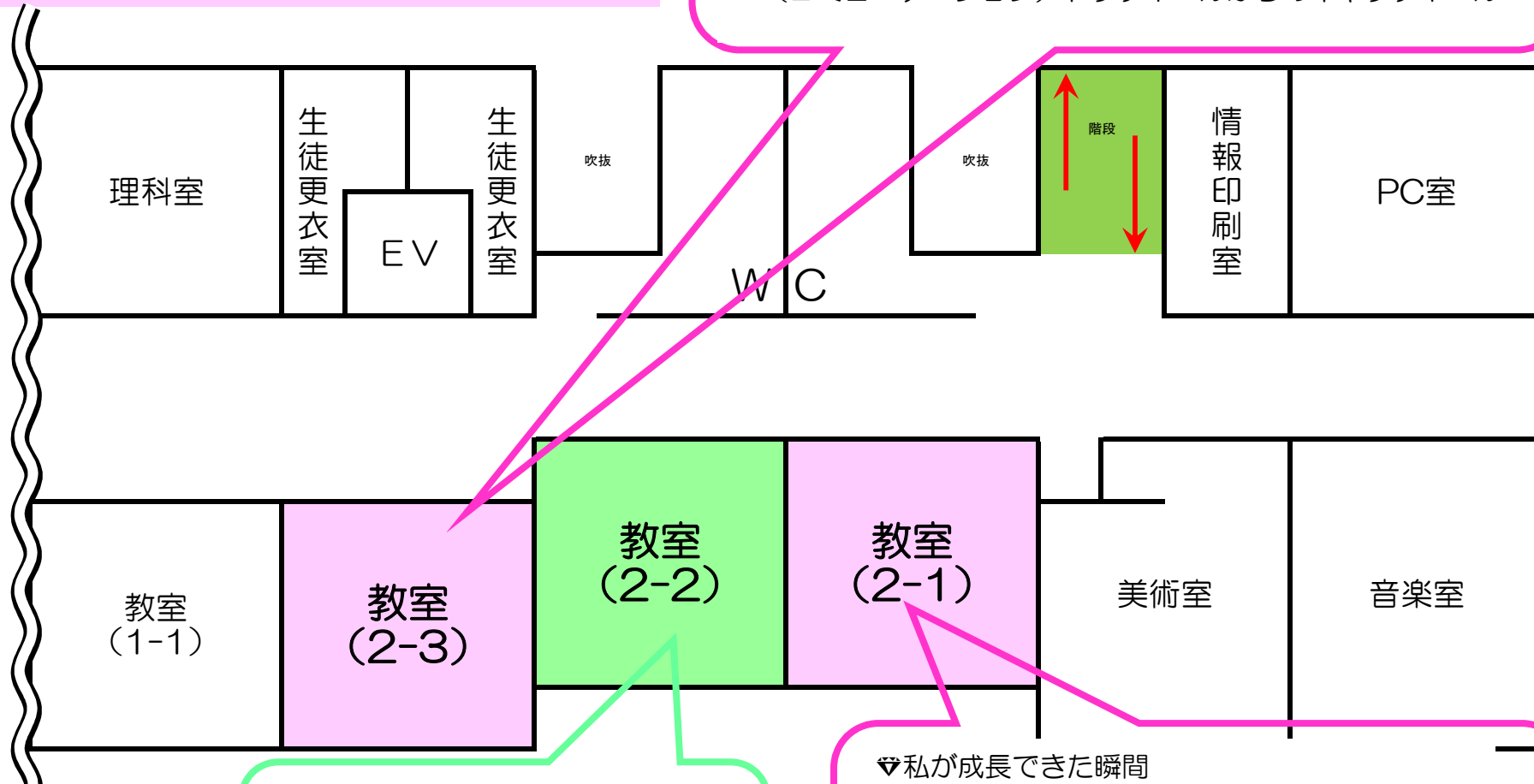
(3年生)  
「キャリアデザイン相談会」  
“参加者の悩み聞きます”

(3年生)  
「キャリアデザイン相談会」  
“参加者の悩み聞きます”



(2年生)  
ポスターセッション  
“自分が成長した瞬間”

- ▽OSでせいちょうしたこと
- ▽弱い自分をこえる時
- ▽今やるしかない
- ▽実習を通して成長した自分
- ▽最後には、自分に矢印を向ける
- ▽（コミュニケーション）ドッチボールからのキャッチボール



(3年生)  
「キャリアデザイン相談会」  
“参加者の悩み聞きます”

- ▽私が成長できた瞬間
- ▽中学の私よ さよなら
- ▽自分が成長した事
- ▽苦手な事にチャレンジできたビルメンテナンス
- ▽はじめてのチャレンジ

# 全体会③

14:30~16:30

14:30~15:15	横浜わかば学園の実践の到達点と今後の展望~新学習指導要領の実施に向けて~ (ビデオ) 弘前大学大学院教育学研究科 教授 菊地 一文氏
15:15~16:15	パネルディスカッション 「わかば学園の学びが <sup>とき</sup> 生きたと感じる瞬間」 ファシリテーター：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 坂本 征之氏 パネリスト：横浜わかば学園卒業生
16:15~16:30	質疑応答
研修会議室	



## 横浜わかば学園の実践の到達点と今後の展望

弘前大学大学院教育学研究科 教授  
菊地 一文

## 学習指導要領改訂の方向性



※高等教育については、些末な事象的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題となっており、そうした点を克服するため、重要課題の整理等を含めた高大接続改革等を進める  
※平成29年度新特別支援学校幼稚園部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領説明会説明資料より引用

## 新しい学習指導要領の総則の構造

- ①何ができるようになるか  
(育成を目指す資質・能力)
  - ②何を学ぶか  
(教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成)
  - ③どのように学ぶか  
(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)
  - ④児童生徒一人一人の発達をどのように支援するか  
(児童生徒の調和的な発達を支える指導)
  - ⑤何が身についたか  
(学習評価の充実)
  - ⑥実施するために何が必要か  
(教育課程の実施に必要な方策)
- 学びを捉える一連のプロセスの把握
- 個々の学びや発達を捉える視点
- チームとしての方策やシステム構築

## 現行学習指導要領における キャリア教育の推進による3つの成果

- ①「**地域協働活動**」の推進と充実  
→学校内完結に留まらない**社会に開かれた教育活動**
- ②「**育てたい力**」に基づいた授業及び教育課程改善  
→4領域8能力、基礎的・汎用的能力、知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックスの活用等
- ③「**キャリア発達**」の理解と「**内面の育ち**」への注目  
→振り返りと言語化、対話の重視  
本人の「**思い**」や「**願い**」への着目

## 【再確認】知的障害のある児童生徒の学習上の特性等

### 学習上の特性

- ・学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、**実際の生活の場面**の中で生かすことが難しい
- ・成功経験が少ないことなどにより、**主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていない**ことなどが多い



- ・**実際の生活の場面に即しながら、繰り返して学習**する継続的、段階的な指導
- ・**細かく認め、賞賛**することによる、児童生徒の自信や主体的に取り組む意欲の育成
- ・**学習環境の効果的な設定**、周囲の理解、学習活動への主体的な参加や経験の拡大、情報機器等の有効活用

### 実態把握の重要性

- ・障害の程度が極めて重度の場合→より詳細な実態把握
- ・重複障害の場合→より一層のきめ細やかな配慮

-5-

## 「わかりやすさ」とはなにか

- わかるために**環境を整える**こと
  - ※「生徒にとっての学びやすさ」>「教師にとっての教えやすさ」
- その環境には**文字や言語などの表現手段、教材教具等**だけでなく、**人も含まれ、相互の関係の上に成り立つもの**と捉えることができるのではないかと
- すなわち私たちが生徒の「思い」を「**わかろうとする**」ことや「**認める**」ことが前提となり、出発点になる
- 生徒が**見通しをもつ**ための「わかりやすさ」と、振り返り、その**意味や価値に気づく**ための「わかりやすさ」も大事

-6-

これまでの取組の成果

生徒の「思い」や「対話」を大切にした実践



特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月)  
第1章 総則 第5款 生徒の調和的な発達の支援

1 生徒の調和的な発達を支える指導の充実

(3)生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自己の在り方生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。その際、家庭及び地域や福祉、労働等の業務を行う関係機関との連携を十分に図ること

※朱書き、下線は筆者による

振り返りや対話から気づく学びの必然性

—なぜ・なんのため学ぶのか—

実習で力を発揮できなかったある生徒の例

・朝の通勤で疲れ、仕事に集中できず、作業効率が悪くなる



・振り返りと対話

→「なんとかしたい」という思い

→どのような力が必要で、どの授業をとおして身に付けるか検討



・学ぶことの必要性

→各教科等において身につけたいこと

「国語」をとおして「分からないことを聞く」コミュニケーション力を

「数学」をとおして「時間の計算の仕方」を身に付け、先を見通す力を

「体育」をとおして基礎的な体力を、「生活そのもの」を見直し習慣形成を

## 3つの“C”とカリキュラム・マネジメント

### Container(コンテナ)

→「容器」「入れ物」...「どの教科等で学ぶか」

### Contents(コンテンツ)

→「中身」「内容」...「何を学ぶか」

※従前は「知的障害の状態及び経験等を踏まえて」

改定後は「知的障害の状態、生活年齢、学習状況、経験等」に

### Context(コンテキスト)

→「文脈」「状況」...「なぜ・なんのため学ぶか」、「学んだことが何につながるのか」「どんな力がつくのか」等



Competency  
(コンピテンシー)

組織的・体系的な、分析的・総括的な学習評価の実施及び活用に加え、生徒を主語としたContextを踏まえた「カリキュラム・マネジメント」が必要

-13-

## 第6章 自立活動

### 第3款 個別の指導計画の作成と内容の取扱い

(3)具体的な指導内容を設定する際には、以下の点を考慮すること。

ア 生徒が、興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わうとともに自己を肯定的に捉えることができるような指導内容を取り上げること。

オ 個々の生徒に対し、自己選択・自己決定する機会を設けることにより、思考・判断・表現する力を高めることができるような指導内容を取り上げること。

カ 個々の生徒が、自立活動における学習の意味を将来の自立や社会参加に必要な資質・能力との関係において理解し、取り組めるような指導内容を取り上げること。

※朱書き、下線は筆者による

-14-

## 主体的・対話的で深い学び

① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」

② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」

③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」

※下線は筆者による

-15-

## 「言語化・対話」について考える

### ① 会話と対話の違い

→相手の「思い」「考え」に応じ、理解しようとするのが前提となる？「聴く」「伝える」こと双方を大切にする。言語活動を質的に見る必要がある？

### ② 自己内(で起きている)対話(「思い」や「願い」)への着目

→他者を含む外界からの刺激に対して起こる疑問、共感、推察、確信等...

### ③ 刺激の1つとしての「問い」の重要性

→「できたかどうか」から「なぜ・なんのため」「どうして」「どうしたい」に  
→距離を置いて「見る」ことや「立場(役割)を変える」ことで気づけることも

### ④ 心が動く豊かな体験と「振り返り」

→「できた」「認められた」「人の役に立った」  
→相手の求めに応じる、共同解決する、つまずきが解決される等

### ⑤ 対話を促進させ、課題解決につなげる具体的方策

→環境設定や構造化、可視化、ツール、サイズ、時間や回数の指導計画、  
→ファシリテーションスキルへの着目、リーダーとフォロワーの関係

## 授業場面から「自己内対話」について考える

- ・児童生徒が「見ようとしているか」「聞こうとしているか」「思考しているか」に着目
- ・「思考している」とは、答えられた「結果」だけではないむしろ答えられない状態の中で動いているもの
- ・児童生徒が「思考している」背景にある「思い」や「願い」  
表出される音声言語に限定しない。視線や表情の変化を含む「思い」の表れ。
- ・これらを把握するための環境整備や働きかけはどうあればよいか。
- ・感じたことの言語化や対話、「問う」ことの重要性
- ・やりとりをとおして児童生徒が「応じた」ことに対する意味付けや価値付けが大切

-17-

## 豊かな体験をとおして 「学びに向かう力」を高める地域協働活動

## 地域協働活動と4つのキーワード

### 1 社会に開かれた教育課程

→③地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育の目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること

### 2 育成を目指す資質・能力

→どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか「**学びに向かう力・人間性等**」

### 3 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングの視点)

→②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

### 4 カリキュラム・マネジメント

→③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること(中央教育審議会, 2016)

➡ **4つのキーワードは相互に関連**しており、キャリア発達支援の一環として進められてきた「**地域協働活動**」と密接に関連

-19-

特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月)  
第2章 各教科 第2節 知的障害者である生徒に対する教育を行う  
特別支援学校 第1款 各学科に共通する各教科目標及び内容

## 職業

### 3 指導計画の作成と内容の取扱い

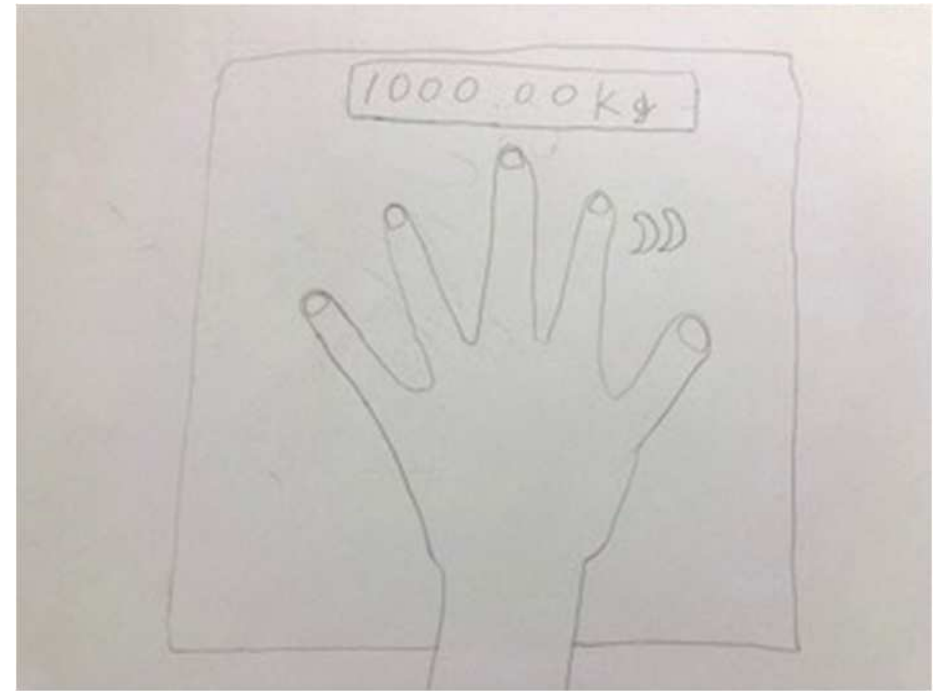
(1)指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする

ウ 生徒一人一人の**キャリア発達を促していくことを踏まえ**、発達の段階に応じて望ましい勤労観や職業観を育むとともに、**自己に対する理解を深め、自らの生き方を考えて進路を主体的に選択することができるよう、将来の生き方等についても扱うなど、組織的かつ計画的に指導を行うこと。**

※朱書き、下線は筆者による

-20-

共通教科における横断的な工夫



今後への期待

**引き続き大切にしていきたいこと**

- ・生徒の「思い」を大切にすること
- ・「体験」や「思い」を生徒自身が「意味付け」するための対話



# カリキュラム・マネジメント

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)  
中央教育審議会 平成28年12月21日

## 第4章 学習指導要領等の枠組みの改善と「社会に開かれた教育課程」

- 2. 学習指導要領等の改訂の方向性
- (2) **教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す**  
「カリキュラム・マネジメント」の実現

### カリキュラム・マネジメントの3つの側面

※以下、原文の抜粋(下線は筆者)

資質・能力

単元・題材

- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、**学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点**で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する**調査や各種データ等に基づき**、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な**人的・物的資源等**を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること

学習評価等

地域協働活動等

※上記3点のほか、特別支援教育については「個別の諸計画」の評価と改善を教育課程の評価と改善につなげることが位置付けられていることに留意。

-25-

# これからのわかば学園に求めたいこと

- ①シラバスの充実と生徒による活用
- ②各教科の目標・内容を踏まえた学びの「高まり」と「広がり」の可能性の追求
- ③生涯にわたって学び続ける「学びに向かう力」の育成とその検証

# 異なること、重なることの両方を踏まえて学び合おう

「認める」「伝える」

一人一人がもつ「価値」の意識化を



「つながる」「つなげる」

一人一人がもつ「価値」の共有化を



「一歩踏み出す」

「価値」の融合、化合による新たな創造へ

年齢、経験、専門性、障害種別、学部、学校、地域、企業、福祉、医療等、立場を越えて

-27-



キャリア発達を促す教育の充実に向けて

-28-

# パネルディスカッション

とき  
わかば学園の学びが生きたと感じる瞬間  
～キャリアデザインを使った学び～



## パネラー紹介

- ファシリテーター  
◆坂本征之  
・現：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 主任研究員  
・元：日野中央高等特別支援学校 教務主任・進路専任
- パネラー（横浜わかば学園卒業生）  
◆1期生 中庭 遥香：学校法人 聖マリアンナ医科大学勤務…ベッド清掃、ベッドメイク、軽作業  
◆2期生 古川 暢起：株式会社 横浜ロイヤルパークホテル勤務…調理補助  
◆3期生 白川 心一：メルコテンドーメイツ株式会社 湘南メイツ工房勤務…食品製造・クッキー製造  
◆4期生 竹内 夏実：株式会社ギオン勤務…ロジスティックス(荷物の仕分け、ピッキング作業)



## 企画主旨

今回の、テーマである

とき  
わかば学園の学びが生きたと感じる瞬間  
～キャリアデザインを使った学び～

が、

実際に就労先や生活の中でどのように生きているのかをひも解き、  
これからの学校は何を教えていくべきなのかを明らかにする。



## そのために・・・

1. 卒業生に学校時代や現在の生活の「ふり返し」をしてもらい、  
キャリアデザインやキャリアデザイン相談会などの取組から  
得たものや学校時代の中から今に生きていることを挙げてもらおう。
2. 現在の生活の中で学校時代に学びたかった事など、パネル  
ディスカッションを通して、学校の課題を見つけ、これからの  
学校づくりに生かしていく。

でも、本当に重要なことは、卒業生が楽しく話して帰ること



横浜市立若葉台特別支援学校  
(横浜わかば学園)  
令和元年度 公開研究会



## パネルディスカッション

「わかば学園の学びが生きたと感じる瞬間<sup>とき</sup>」

令和2年2月7日(金)  
15:15~16:15



独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所

主任研究員 坂本 征之  
sakamoto-45@nise.go.jp

2



## 【在学中の生活編】

1 「横浜わかば学園に入学したい！」  
と思った一番の理由はなんですか。

卒業した今、その時の選択に何点をつけますか。

3



## 【在学中の生活編】

2 「楽しかったこと」、「うまくいったこと」、「ほめられたこと」の中で、一番覚えているのはどんな場面ですか。

どうしてその場面を選んだのですか。

4



## 【在学中の生活編】

3 一番「困っていたこと」は、どんなことでしたか。

解決に向けてどんなことをしましたか。

5



## 【卒業後の生活編】

1 「心がけていること」、「自分が変わったと思うこと」から考えて、卒業後、一番自分が変わったところはどんなところですか。

どうして変わることができた（できている）のですか。

6



## 【卒業後の生活編】

2 「今、困っていること」の中で、一番困っていることはどんなことですか。

その時に〈相談力〉は発揮できていますか。

7



## 【卒業後の生活編】

3 『キャリアデザイン（キャリアデザインシート・CC&CG）』は、今の生活に生かされていますか。

それは、どんな場面で見えますか。

それ以外の授業内容で生かされていることは、どんなことですか。

8



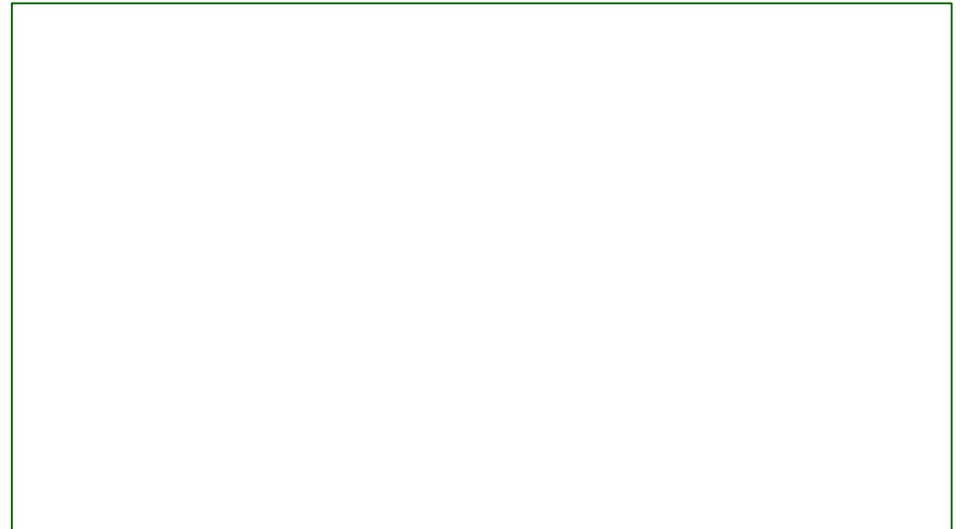
## 【卒業後の生活編】

4 横浜わかば学園で、もっと「学びたかったこと・教えてほしかったこと」はどんなことですか。

9



## 【卒業生からのメッセージ】



10



## 学習指導要領におけるキャリア教育の充実

高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)

第5章 **特別活動** 第2 各活動・学校行事の目標及び内容

**〔ホームルーム活動〕** 2 内容

### (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

- ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解  
現在及び将来の生活や学習と自己実現とのつながりを考えたり、社会的・職業的自立の意義を意識したりしながら、学習の見通しを立て、振り返ること。
- イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館等の活用  
自主的に学習する場としての学校図書館等を活用し、**自分にふさわしい**学習方法や学習習慣を身に付けること。
- ウ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成  
社会の一員としての自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、**働くことや社会に貢献すること**について考えて行動すること。
- エ 主体的な進路の選択決定と将来設計  
**適性やキャリア形成などを踏まえた**教科・科目を選択することなどについて、目標をもって、**在り方生き方**や進路に関する適切な情報を収集・整理し、**自己の個性や興味・関心と照らして考える**こと。

11



## 学習指導要領におけるキャリア教育の充実

高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)

第5章 **特別活動** 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。  
(4) **障害のある生徒**などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の**工夫を計画的、組織的**に行うこと。
- 2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。  
(3) 学校生活への適応や人間関係の形成、教科・科目や進路の選択などについては、**主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリング**(教育相談を含む)の双方の趣旨を踏まえて指導を行うこと。特に入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望や目標をもって生活をできるよう工夫すること。あわせて、**生徒の家庭との連絡を密に**すること。

12



## 学習指導要領におけるキャリア教育の充実

### 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)

第5章 **特別活動** 第2 各活動・学校行事の目標及び内容

#### 〔ホームルーム活動〕

##### 2 内容

- (1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画
- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) **一人一人のキャリア形成と自己実現**

第6章 **特別活動** 第2 各活動・学校行事の目標及び内容

#### 〔学級活動〕

##### 3 内容の取扱い

(2) 2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、**児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用**すること。

13



## 「キャリア・パスポート」とは

児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等 = 「キャリア・パスポート」

### 5 内容

- (8) **通常の学級に在籍する**発達障害を含む障害のある児童生徒については、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて指導すること。また、**障害のある児童生徒の将来の進路**については、**幅の広い選択の可能性**があることから、**指導者が障害者雇用を含めた障害のある人の就労について理解する**とともに、必要に応じて、労働部局や福祉部局と連携して取り組むこと
- (9) **特別支援学校**においては、個別の教育支援計画や個別の指導計画等により「**キャリア・パスポート**」の**目的に迫ることができると考えられる場合は**、児童生徒の**障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた取組や内容とすること**

### 7 実施時期

本資料を参考に、都道府県教育委員会等、各地域・学校で柔軟にカスタマイズし、**2020年4月より、すべての**小学校、中学校、高等学校において実施することとする。(略)

「キャリア・パスポート」例示資料等について(事務連絡)平成31年3月29日

15



## 「キャリア・パスポート」とは

児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等 = 「キャリア・パスポート」

### 3 目的

**小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては**、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、**主体的に学びに向かう力**を育み、**自己実現**につなぐもの。

**教師にとっては**、その記述をもとに**対話的にかかわる**ことによって、児童生徒の**成長を促し、系統的に指導**に資するもの。

### 4 定義

「**キャリア・パスポート**」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及び**ホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ**のことである。

なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、**教師が対話的に関わり**、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、**学校、家庭及び地域における学び**を自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。

「キャリア・パスポート」例示資料等について(事務連絡)平成31年3月29日

14



## 国立特別支援教育総合研究所

NISE (National Institute of Special Needs Education)

### 卒業生の皆さんは、学校にとって「宝物！」

今日、勇気を出して、自分のことを話してくれたので、私たちは多くのことを学び、考えることができました！  
これからも、皆さんからいろいろなことを学び続けていきたいと思っています！そのためにも、卒業してからの社会生活について教えてください。ご協力をお願いします！

**本日は、ありがとうございました！**



16



## キャリア・パスポート（例示資料）

### 高等学校

#### （指導者用）

#### 【抜粋版】

### 高校生のみなさんへ

「キャリア」の意味や、高校生活でさらに伸ばしてほしい能力（基礎的・汎用的能力）、「キャリア・パスポート」のねらいを端的に示すことで、教職員、生徒、あるいは保護者と共通認識をもつ。

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きています。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものです。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもありますが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を積み重ねながら取り組んでいます。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものです。

このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところです。

これからのますます変化の激しい社会の中で、主体的に自らの可能性を発揮し、よりよい社会や世界と幸福な人生の創り手となっていくために、みなさんには、キャリア形成の視点から、以下の能力をさらに伸ばしていくことが求められています。

《高校生活でさらに伸ばしてほしい能力》

<p><b>【人間関係形成・社会形成能力】</b></p> <p>多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力</p> <p>《例》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・友達や家の人の意見を聞くとき、相手の立場を考慮して、その人の考えや気持ちを受け止めようとする。</li><li>・自分の考えや気持ちを整理し、相手が理解しやすいよう工夫して、伝えようとする。</li><li>・人と何かをするとき、自分がどのような役割や仕事を果たすべきか考え、分担しながら、力を合わせて行動しようとする。</li></ul>	<p><b>【自己理解・自己管理能力】</b></p> <p>自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会と相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力</p> <p>《例》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分を振り返り、長所や短所を把握して、良いところを伸ばし、悪いところを克服しようとする。</li><li>・自分がすべきことがある時に、喜怒哀楽の感情に流されず行動を適切に律し、それに取り組もうとする。</li><li>・不得意なことでも、自ら進んで、取り組もうとする。</li></ul>
<p><b>【課題対応能力】</b></p> <p>仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる能力</p> <p>《例》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・調べたいことがある時、自ら進んで資料や情報を収集し、信ぴょう性が高く、かつ、必要な情報を取捨選択しながら活用できる。</li><li>・何か問題が起こった時、次に同じような問題が起こらないようにするために、原因を調べ、課題を発見し、解決のための工夫ができる。</li><li>・何かをする時、見通しをもって計画し、評価・改善を加えながら行動ができる。</li></ul>	<p><b>【キャリアプランニング能力】</b></p> <p>「働くこと」を担う意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力</p> <p>《例》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学ぶことや働くことの意義について考えたり、様々な働き方や生き方があることを理解したり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしている。</li><li>・自らの将来について具体的な目標をたて、社会の現実を視野におさめながら、その実現のための方法について考えている。</li><li>・将来の目標の実現に向けて具体的な行動を起こしたり、それを振り返って改善したりする。</li></ul>

みなさんには、授業や学校行事、部活動などでの様々な体験や学びを通して、これらの能力を自ら成長させることを意識してほしいと思います。

そして、この「キャリア・パスポート」で、高校生活を見通したり振り返ったりしながら、学びの履歴を積み重ねていくことが、みなさんの今後の人生を創っていくための「道しるべ」になることを願っています。

以下の内容を各学校で改めて整理することにより、教員の「キャリア教育」に対する理解促進や、「キャリア・パスポート」の取組に見通しを持たせることにつなげる。

学校からのメッセージとして、以下のよう  
な項目を想定しているが、項目の順番や内  
容については必ずしもこの通りでなくとも  
よい。

## 〇〇高等学校のみなさんへ

自校の生徒に分かりやすい言葉・表現で整理することが重要である。

### 〇〇高等学校で卒業までに身につけてほしい力とは

地域や学校、生徒の実態や特性等を考慮した学校の教育目標を踏まえ、〇〇高校の生徒として、卒業までに具体的にどのような力を身につけてほしいのか（育成したいのか）を明確に示すことで、〇〇高校の生徒として、何を意識して学校生活を送ることが大切なのかを、生徒、教職員、保護者等で共通意識をもつ。

既存の学校経営計画やカリキュラムペーパーなどの文言を、そのまま活用することも考えられる。

### キャリア・パスポートを作成するねらい・期待すること

生徒の「何のために作成するのか」という疑問に答える。

例)

- ・学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立てること
  - ・学んだことを振り返ること（様々な活動を「やりっぱなし」で終わらせない）  
→新たな学習や生活への意欲につなげること
  - 将来の生き方を考えること
- また、学習指導要領上のねらいの他に、各校独自のねらいも考えられる。

生徒の「作成することでどのようなメリットがあるのか」という疑問に答える。

例)

- ・生徒にとっては自己理解、教員にとっては生徒理解を深めるためのものとなる
- ・就職、進学の際に、これまでの自分自身を振り返り、将来を考えるのにも役立つ

### 生徒たちへのメッセージ

このページ全体が生徒へのメッセージではあるが、例えば、「高校生活の中でたくさん失敗してほしい。失敗から学ぶことも多くある。」といった、上記以外に自校の生徒に伝えるべき内容を書き込むことが考えられる。

このシートの内容を基本としながら、さらに各学年において身につけてほしい力等を段階的に整理したうえで、各学年の生徒たちに個別にメッセージを送ることも考えられる。

〇〇年4月

〇〇高等学校 校長 ▲▲ ▲▲

## 卒業年度を見通し、振り返る

卒業年度については、将来の目標の実現に向けて具体的な行動を起こしたり、それを振り返って改善したりすることを特に意識した様式としている。

○1年後の自分を想像しよう。

記入日 年 月 日

どんなふうになっていたか（目指す進路や目標）

次の年度（高等学校の次の段階）の4月を見据えたうえで、年間の取組を計画する。

○1年後に向けて、いつ、何に取り組むかを考えよう。

4月	7月	9月	11月	1月	3月	4月
	小中高を振り返るシートの作成	就職試験	専門学校入学試験	センター試験（大学入学共通テスト）	卒業	

社会に出て仕事を行う上でも、このように目標を設定し、目標達成のための手立てを検討のうえ実行し、振り返りを行うことが重要であることを意識させることが大切である。

取組の記載はあくまで例示であり、例示以外の取組も記載する。

記入日 年 月 日

具体的に何に取り組むか	どのように取り組むか	進捗状況確認（9月頃）

年度の途中に一度、設定した目標や取組の状況を確認し、必要に応じて目標や取組の修正を行う。  
なお、修正が必要な場合には、余白部分に後から自分自身が見返しても分かるように記載すること。

○1年間の振り返りをまとめよう。

記入日 年 月 日

何に取り組んできたか	どのような点がよかったと思うか（成長できたと思うか）

○卒業後の自分について、どんな自分になりたいか（将来どんな生き方をしていきたいか）を考えよう。

先生からのメッセージ	先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと



※学校に既存の様式があれば、そちらを活用してもらってもかまいません。

他の学校行事とは異なり、働くことに関する活動は別様式を設定。

## 就業体験・インターンシップについて（働くことに関して）

### 【事前】

記入日 年 月 日

「働くこと」についての今の考え（「働く」ということに、どのようなイメージや考えをもっているか）

受入先

体験先選定の理由

どうしてその職場に行くのか、その理由を自分自身の言葉で整理することが重要である。

就業体験・インターンシップを通じて、どんなことを得たいのか

就業体験・インターンシップを通してなりたい自分のイメージ（どう成長したいのか）

### 【事後】

記入日 年 月 日

就業体験・インターンシップを通して学んだこと（気づいたこと、よかったこと、反省したことなど）

受入先から自分の将来に向けてどのようなアドバイスもらったか

「働くこと」についての今の考え（体験を通してどのように考えが変わったか・変わらなかったか）

事前・事後に「働くこと」そのものに関する同じ問いに向き合ってもらうことで、生徒自身が自己の変容に気づいてほしい。

今、考えている自分の進路（〇〇に進学・〇〇業に就職・迷っている）とその理由

辛口のコメントでも、指摘は本人にとっては早急に改善が必要な点であり、貴重なものとなる。

「迷っている」のは、体験が揺さぶりをかけている証拠である。何をどう迷っているのか、心の迷いを整理することが大切である。

受入先からのアドバイス

学校の外の方からの目線で、良いことだけでなく、改善すべき点についてもコメントをもらうことで、生徒自身が今後の自己の在り方を考えるきっかけにしてほしい。

先生からのメッセージ

受入先からのアドバイス・先生からのメッセージを読んで考えたこと

## 「キャリア・パスポート」を活用した授業例②

- （1）高等学校 特別活動
- （2）2学年 ホームルーム活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」  
エ 主体的な進路の選択決定と将来設計
- （3）題材「自分を知り、進路を見直す」  
▶自分自身の興味・関心などの個性を理解した上で、自分の将来の生き方や生活について見通しをもち、進路選択を行う。
- （4）事前の指導（活動）  
▶これまで作成した「キャリア・パスポート」をもとに、今学期の自分自身の成長や今後の方向性（自分自身の進路や進路実現に向けた具体的な手立てを含む）等を自己評価する。
- （5）本時の学習過程

	児童生徒の活動	指導の留意事項
導入	▶ねらい「自分を知り、進路を見直す」についての確認（これまでの「キャリア・パスポート」を整理し、自分の興味関心等の個性を理解し、自分の将来の生き方や生活について見通しをもち、進路選択を行う。） ▶この活動をもとに三者面談を行うことについての確認	▶多様な考えや意見を受け入れ、尊重し合う雰囲気をつくるため、相手の意見を否定しないといった「グランドルール」を確認する。
展開	▶これまでに作成した「キャリア・パスポート」（「学期を見直し、振り返る」「学校行事」等の様式）をもとにグループで話し合い、相互評価を行うとともに、生徒自身が行うプレゼンテーション（「私のプレゼンテーション」）の原稿を作成する。 ▶作業途中で各2分間のプレゼンテーションの練習をする。（グループで話し合い、相互評価をくり返す。）	▶取組がうまく進んでいない生徒に対して、教員が個別の支援を行う。 ▶多様な考えや意見を受け入れ、尊重し合う雰囲気をつくるため、相手の意見を否定しないといった「グランドルール」を確認する。
終末	▶（これまでの「私のプレゼンテーション」の作成や話し合い活動を通じて）二者面談や三者面談という進路選択の場面に向けた決意と具体的な進路への目標設定を意思決定する。	

- （6）事後の指導（活動）  
▶【「生徒が話す三者面談」】「キャリア・パスポート」を活用してまとめた今学期の自分自身の成長や今後の方向性（自分自身の進路や進路実現に向けた具体的な手立てを含む）等について、面談の中でクラス担任、保護者にプレゼンテーションを行う。  
▶面談中に感じたことや考えたことを踏まえ、次の「学期を見直し、振り返る」様式を作成する。
- （7）実施時期  
7月中での実施を想定している。（2年次に限らず毎学年実施することも考えられる。）  
また、上記の授業例をもとに、次のような取組も考えられる。  
【「生徒が話す二者面談」】  
作成した「キャリア・パスポート」をもとに、自分なりに取り組んできたことやこれから取り組もうと考えていることについて、クラス担任に対して生徒が自分の言葉でプレゼンテーションを行う

公開研究会へのご参加ありがとうございました。



わかば学園公式キャラクター